



## 今日も地域で頑張っています！！

～いつも各地の大会会場で頑張っている方々を紹介します～

2017年7月9日(日)印旛郡市民体育大会サッカーの部 ～白井市運動公園～



千葉県内では様々な大会が開催されていますが、そこで日頃から活躍している審判の方々にスポットを当てて取材しました。今回は県民大会の印旛郡市代表権をかけて行われた「印旛郡市民体育大会」で審判を担当した方々にインタビューしました。

- |                      |  |                |
|----------------------|--|----------------|
| ①:氏名(敬称略)            | ②:審判歴                                  | ③:審判になったきっかけは？ |
| ④:これまで長く審判して来られた理由は？ | ⑤:審判しているのエピソードや、これだから審判は辞められない審判の魅力とは？ |                |



- ①:上山 洋一(かみやま よういち)  
 ②:約 17 年  
 ③:私の子供がサッカークラブに入団したことでコーチとして誘われ、帯同審判の必要性が生じた結果、..  
 ④:4 種チーム仲間の審判部長になって、当時は招待サッカーを開催すると、招待したチームの 3 級審判にお願いする状況で、これではイカン！と一念発起して 3 級を取得したのですが、後任が見つけれられず辞められない(笑)  
 ⑤:審判がいないと試合が成り立たないところに、審判のやりがいと魅力を感じています！

- ①:河村 義彦(かわむら よしひこ)  
 ②:10 年以上(上山さんには子どもと言われますが…。子供が卒団したからの方が長くなってしまいました。)  
 ③:上山さんが誘われたように子供がサッカークラブに入団したことでコーチとして誘われ、上山さんに審判新規取得講習会に行ってください、と。そして、取得したら副審やってください、と。  
 ④:定年がない(笑)。手伝える限りは手伝いたいです。お歴々からまだ恩を返し終わってないね！とも(笑)。でも、そろそろ…なんて言うと、柏の御大からも『何言ってるの？オレがやってるのに』という声も(汗)。ただ、50 が近づいてくると極端に体力の衰えを感じます。  
 ⑤:そんなつもりはなかったのに、実技の更新講習会でインストラクターの方に『あなた、偉そうですね。』と言われたのがトラウマになって、それを打ち消すべく態度や姿勢には気を遣っています。



- ①:金塚 文博(かなづか ふみひろ)  
 ②:約 20 年  
 ③:息子が小学生の時にサッカーを始めて、チームの帯同審判をしたのが始まり。その後県の強化審判員の公募に応募し、指導していただいたインストラクターのススメによりハマってしまいました。自分自身サッカーの経験はありません。  
 ④:一言で言うと、“面白い”  
 ⑤:毎試合シチュエーションが違う点です。失敗しても成功しても。失敗してもその問題を一週間考えてまたその課題にチャレンジしています。ただ、そろそろ県の割当てのアポイントに対して、年齢的な体力の衰えによる不安も感じるようになってきました。



- ①:河本 宏一(かわもと ひろかず)
- ②:約 20 年
- ③:子供が所属していた小学生チームの帯同審判から始めました。
- ④:チームに若いコーチが入ってこなくて、サッカーが好きだったのもあり、自分がやるしかない、と。本当は若い人がどんどん出てきてやっていただけるのですがなかなか…。サッカーは好きだけど、審判は、、、という方が多く…。
- ⑤:審判で100点満点で80点を取れば良いと思うのだけど、なかなか難しい。なるべく100点を目指そうと思うのですが、なかなか…。判定でブレてしまったりして、『次は頑張ろう!』と思えるところが魅力です。

□

①:大倉 博之(おおくら ひろゆき)

- ②:約 13 年
- ③④:子供が所属していたチームで帯同として始め、卒団とともにしばらく失効していたが、そのチームの代表を引き受けることになり…。前任者が審判については厳しい方で、『試合(の結果)は負けても、審判として負けちゃダメだ!』と。叱咤されて、『なにくそっ!』という気持ちでここまで続いています。
- ⑤:審判って、面白いですよ。サッカーって、疲れる、決して楽なスポーツではないと思うんですけど。



①:養田 富雄 (ようだ とみお)

- ②: 29 年
- ③:子供が所属していたチームから、いきなり笛を持たされて、全然サッカー経験がなかったので何もわからず、ただ、持たされたことは(笛を)吹いていいんだな、と副審をしていてタッチアウトした時に主審が気づかなかった時にピピッと吹いてしまった、というデビュー時のエピソードがあります。
- ④:もう年も年なので、お役御免にさせていただきたいのだが、誰も都合つかないからってお願いされてズルズル…。更新しないまでやめられないかな(笑)
- ⑤:魅力…ないかなあ(笑)でも、誰かがやらなくてはいけないからね。昔より審判に対する風当たりはギスギスせず和やかになったと思います。先日も熱くなったプレイヤーの中へこの好々爺が入っていくと、『このジイさんになだめられたらしょうがないか。』とクールダウンしてしまう。



①:山田 裕美子 (やまだ ゆみこ)

- ②: 10 数年
- ③④:子供のサッカーチームを応援しに行っていて、オフサイドのルールが分からず、4級審判員の新規取得講習会に参加して理解を深めてみよう、と思ったのがきっかけです。でも、講習会に参加しただけでは全然理解できず(笑) 競技規則の言葉も難しく、最初は戸惑いましたが、他の仲間を人間の駒にしてシュミレーションして確認したり、女性のチームで帯同審判として学んできながらやってきました。
- ⑤:選手たちが一所懸命やっているのを見るのが好きです。外で見るより、身近でそれを感じることが出来ます。なので、余計にちゃんとやらなきゃ、と思います。毎年香取研修で厳しい指導に遭いますが、それでもまた辞めずに頑張ろうと思うのは、何かあるんでしょうね。



□

①:林 克三 (はやし かつみ)

- ②: 23 年
- ③④:子供が所属していたチームのお父さんコーチから始めて、ちゃんとした審判が必要だね、と審判資格を取得し、どんだのめり込んでいきました。
- ⑤:公平な審判が出来たら、と思いつつ、なかなかうまく実現できなくて…。次こそは!というチャレンジのしがいがあるところ、です。

